

官佛蘭西
法律書
商法

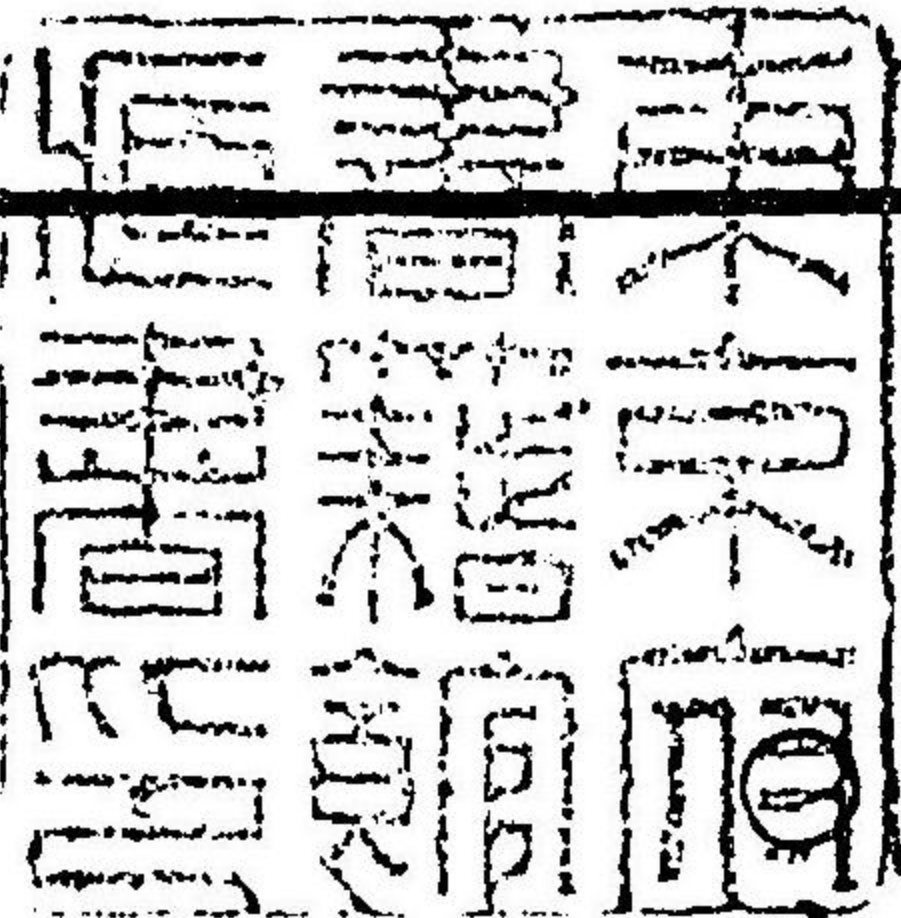
CF2
3
07

館書圖京東	
函 四一	門 新
架 一	部 一
號 〇九四	類

共五本

Ⓜ

CF2
3
07



佛蘭西
律書
商法
第三

權大内史箕作麟祥 譯

明治九年文部省交付

第九卷 船又ハ積荷ヲ引當品トシテ金

高ヲ借入ル、契約ノ事船安着スレハ

利金トシテ受取リ船安着セサ
ハ貸主其貸高ヲ失フ契約

第三百十一條 總テ船又ハ積荷ヲ引當品トシ

テ金高ヲ借入ル、契約ハ公正ノ證書ニ之ヲ

記シ又ハ私ノ證書ニ之ヲ記ス可シ

其契約書ニハ左件ヲ記ス可シ

借高及ヒ其利金

引當品

船ノ名及ヒ船長ノ姓名

貸主ノ姓名及ヒ借主ノ姓名

航海ノ時間其貸借ノ契約ヲ為シタル時ハ

何レノ地ニ向ケテ航海ヲ為スヤノ事

別段定メタル期限間其貸借ノ契約ヲ為シ

タル時ハ其期限

返還ノ期日

第三百十二條 佛蘭西國內ニ於テ船又ハ積荷

ヲ引當品トシテ金高ヲ貸ス者ハ其契約ヲ為

シタルヨリ十日内ニ商法裁判所ノ書記局ノ

簿冊ニ其契約書ヲ登記スルノ手續ヲ為ス可

シ若シ此手續ヲ為ササル時ハ其引當品ニ付

テノ債主ノ特權ヲ失フ可シ

若シ又外國ニ於テ其契約ヲ為シタル時ハ第

二百三十四條ニ記シタル法式ニ循フ可シ

第三百十三條 船又ハ積荷ヲ引當品トシテ金

高ヲ借入ル、契約書ニ其貸主ニ其金高ヲ返

シ又ハ其貸主ノ裏書ニ從ヒ其金高ヲ返ス可
 キ旨ヲ附記シタル時ハ其持主裏書ヲ為シテ
 其契約ヲ人ニ賣渡スルヲ得可シ
 此場合ニ於テハ其契約書ノ賣買ヨリ生スル
 諸件及ヒ其持主金高ノ拂返ヲ得サル時其償
 ヲ要ムル訴訟ノ手續ハ總テ商業ニ管スル手
 形類賣買ノ規則ニ循フ可シ 第一篇第
八卷見合
 第三百十四條 其契約書ノ裏書人ハ其持主ニ
 對シ金高ノ拂返ヲ保證スルノ義務アリト雖
 モ利金ニ付テハ其保證ノ義務ナシトス但シ

之ニ及シタル契約アル時ハ此例ニ非ス
 第三百十五條 船又ハ積荷ヲ引當品トシテ金
 高ヲ借入ル、契約ヲ結フニハ左ノ諸件ヲ引
 當品ト為スルヲ得可シ

船

船ニ備ヘタル諸器具

兵器及ヒ食料

積荷

此等ノ諸品ヲ合シタル其全部又ハ此等ノ
 諸品中別段定メタル一部

第三百十六條 若シ借主詐偽ヲ以テ引當品ノ價ヲ實ヨリ更ニ餘分ニ述ヘ金高ヲ借入レタ
ル時ハ貸主ノ訴ニ因リ其貸借ノ契約ヲ取消
スルヲ得可シ但シ貸主ハ借主ニ詐偽アルノ
證ヲ立ツ可シ

第三百十七條 若シ借主ニ詐偽ナキ時ハ評價
シタル所ニ從ヒ其引當品ノ價ニ充ル迄其貸
高ヲ減シテ其契約ノ効ヲ生ス可シ
其餘分ノ貸高ハ其地ノ相場ニ從ヒ相當ノ利
金ヲ附ゲテ之ヲ貸主ニ返ス可シ

第三百十八條 後日得ントスル船賃又ハ後日
得ントスル商品ノ利得ヲ以テ引當トシ金高
ヲ借入ル、事ハ之ヲ禁ス

此場合ニ於テハ貸主元金ヲ取返シ得ルノミ
ニシテ其利金ヲ受取ル可カラス

第三百十九條 水夫又ハ海客ノ雇賃及ヒ給料
ヲ引當トシテ金高ヲ貸ス可カラス

第三百二十條 船ヲ引當品トシテ金高ヲ借入
ル、時ハ貸主其元金ト利金トヲ得ル為メ船
船ニ備ヘタル諸器具、兵器食料並ニ既ニ得タ

ル船賃ニ付キ債主ノ特權ヲ得可シ
 又積荷ヲ引當品トシテ金高ヲ借入ル、時ハ
 貸主其元金ト利金トヲ得ル為メ其積荷ニ付
 キ債主ノ特權ヲ得可シ
 若シ又船中ノ別段定メタル一物又ハ積荷中
 ノ別段定メタル一物ヲ引當トシテ金高ヲ借
 入ル、時ハ貸主其元金ト利金トヲ得ル為メ
 其引當ト為シタル一物ノミニ付キ債主ノ特
 權ヲ得可シ

第三百二十一條

船長若シ船主ノ住スル地ニ

於テ其公正ナル承諾ノ書又ハ其立會ヲ得ル
 コトナク船ヲ引當品トシテ金高ヲ借入タル
 時ハ貸主船及ヒ船賃中ニテ船長ノ有スル分
 前ノミニ付キ債主ノ特權ヲ得可シ
 第三百二十二條 船主等ノ住スル地タルト否
 トヲ問ハス船長船ノ修復及ヒ食料ノ供給ヲ
 為スニ付キ船主等ノ承諾ヲ受ケタル後其船
 主中ニ其費用ヲ出合セサル者アル時ハ船長
 其者ニ之ヲ出ス可キノ要メヲ為シ二十四時
 ノ後ニ至リ其者猶之ヲ出サ、ルニ於テハ船

長其費用ヲ出サ、ル者ノ船ノ一部ヲ所有ス
ル分前ヲ引當ト為シ金高ヲ借入ル、トヲ得
可シ第百三十
三條見合

第三百二十三條 船ノ最終ノ航海ノ為メ金高
ヲ貸シタル者ハ其以前ノ航海ノ為メ金高ヲ
貸タル者ヨリ先キニ其貸金ヲ取返スノ權ア
リ但シ以前ノ航海ノ為メ貸シタル金高ヲ後
ノ航海ノ用ニ引續キ供ス可キトヲ別段定メ
置キタル時ト雖モ亦同一ナリトス
航海中金高ヲ貸シタル者ハ出帆前金高ヲ貸

シタル者ヨリ先キニ其貸高ヲ取返スノ權ア
リ又航海中金高ヲ貸シタル者數人アル時ハ
最終ノ貸主其前ノ貸主ヨリ先キニ貸高ヲ取
返スノ權ヲ有シ其他順序ヲ逐ヒ以テ最初ノ
貸主ニ溯ル可シ

第三百二十四條 契約書ニ記シタル船ニ積入
ル可キ荷物ヲ引當トシテ金高ヲ借入レ其荷
主更ニ他ノ船ニ其荷物ヲ積入レタル時ハ縱
令海上ノ災難ニ逢ヒ其荷物ヲ失フトアリト
雖モ金高ノ貸主是カ為メ損失ヲ受クルトナ

カル可シ但シ抗拒ス可カラサルカノ為メ己
 ムヲ得スシテ其荷物ヲ契約外ノ船ニ積入レ
 タルノ確證アル時ハ格別ナリトス
 第三百二十五條 貸金ノ引當品契約書ニ定メ
 置キタル場所ト期限トニ偶生ノ事アリテ滅
 盡シタル時ハ貸主其貸高ヲ取返サント要ム
 ルヲ得ス

第三百二十六條 引當品ノ性質不良ナルニ因
 リ其品卑悪ニ至リ或ハ其分量減少ニ或ハ滅
 盡シタル時又ハ借主ノ所為ニ因リ其品物ニ

損害ヲ加ハタル時ハ貸主之カ為メ損失ヲ受
 クルヲナカル可シ

第三百二十七條 破船ノ時ハ借主其救ヒ出シ
 タル引當品ノ價ヲ貸主ニ償フヲ得可シ但
 シ其價中ヨリ其品物ヲ救ヒ出シタル費用高
 ヲ減ス可シ

第三百二十八條 契約書ニ其貸借ノ期限ヲ別
 段定メサル時ハ其引當ト為シタル船ニ備
 ヘタル器具兵器食料等ニ付テハ出帆ノ日ヨ
 リ船ノ赴カントスル港ニ到着スル日ニ至ル

迄ノ時間ヲ以テ其期限トス
又引當品ト為シタル積荷ニ付テハ之ヲ本船
ニ積入レタル日又ハ其積入ノ為メ小船ニ入
レタル日ヨリ之ヲ陸揚スル日ニ至ル迄ノ時
間ヲ以テ其期限トス

第三百二十九條 積荷ヲ引當品トシテ金高ヲ
借入レタル者ハ船ト積荷ト全ク滅盡シタル
時ト雖モ其船中ニ借入高ニ充ツ可キ價アル
積荷ヲ有シタルノ證ヲ立ルニ非サレハ其負
債ヲ免ル、ヲ得ス

第三百三十條 船又ハ積荷ヲ引當品トシテ金
高ヲ貸シタル者ハ船ト積荷ト共ニ擔當ス可
キ意外ノ損費中其一部ヲ擔當シ借主ハ其一
部ニ付キ負債ヲ免ル、ヲ得可シ第四百
條見合
又船又ハ積荷ノ中一方ノミニテ擔當ス可キ
意外ノ損費モ亦金高ノ貸主之ヲ擔當ス可シ
但シ之ニ及シタル契約アル時ハ格別ナリト
ス

第三百三十一條 若シ船又ハ積荷ニ付キ之ヲ
引當トシテ金高ヲ借入ル、契約ト海上受合

ノ契約トアル時其船破壊シテ其船ノ一部又ハ積荷ノ一部ヲ救ヒ出スヲ得之ヲ賣拂ヲタルニ於テハ貸主ト受合ヲ為ス者ト各其管係アル元高計セシハ算ノ割合ヲ以テ其賣拂代金ヲ分ツ可シ但シ此規則ヲ以テ第百九十一條ニ記シタル債主ノ特權ヲ害スルヲナカル可シ

○第十卷 海上受合ノ事

○第一章 海上受合ノ契約其法式及ヒ其目的

第三百三十二條 海上受合ノ契約ハ之ヲ書面ニ記ス可シ
 其契約書ハ姓名ヲ手署シタル日ヲ以テ其日附ト為ス可シ
 其契約書ニハ午前ニ姓名ヲ手署シタルヤ又ハ午後ニ姓名ヲ手署シタルヤヲ記ス可シ
第百五十九條 第百六十六條 見合
 其契約書ハ公正ノ證書又ハ私ノ證書タルヲ

ヲ得可シ

其契約書ニハ空行剩白アル可カラズ
其契約書ニハ左件ヲ記ス可シ

受合ヲ為サシムル者ノ姓名住所並ニ其者
受合ヲ為サシムル物件ノ所有者タルヤ又

ハ仲買人タルヤノ事受合ヲ為ス者ハ固ヨ
リ契約書ニ姓名ヲ手
署ス可キヲ以テ
本文ニ之ヲ畧ス

船ノ名及ヒ種類

船長ノ姓名

荷物ヲ積入レタル地又ハ之ヲ積入ル可キ

地ノ名

船ノ出帆レ又ハ出帆ス可キ港ノ名

荷物ヲ積入レ又ハ荷卸ヲ為ス可キ港ノ名

途中立寄ル可キ港ノ名

受合ヲ為ス商品又ハ其他ノ物件ノ種類並

ニ其價

受合ノ契約ヲ為シ始ムル期日及ヒ其終ル

期日

受合ヲ為ス金高

受合ノ利金

若シ双方争ノ起ルヲアルニ於テハ斷判人ノ決斷ニ任カス可キヲ定メタル時ハ其旨

其他總テ双方互ニ契約シタル諸件

第三百三十三條 受合ヲ為ス商品ノ互ニ異ナ

リタル契約又ハ利金ノ互ニ異ナリタル契約

又ハ受合ヲ為ス者ノ互ニ異ナリタル契約ヲ

一通ノ受合契約書ニ記スルヲ得可シ

第三百三十四條 左ニ記列スル物件ハ之ヲ受

合フヲ得可シ

船ニ荷ヲ積ミタルト荷ヲ積マサルト兵器ヲ備ヘタルト備ヘサルト唯一般ノミナルト他ノ船ト同行スルトヲ問ハス其船

船ニ備ヘタル器具

兵器

食料

船又ハ積荷等ヲ引當品トシテ貸シタル金

高借リ方ニテ其借金ヲ受合ハシ

積荷ノ商品及ヒ其他總テ價ヲ秤ルヲ得

可クシテ海上ニテ滅盡破損スルノ恐アル

物件

第三百三十五條 前條ニ記列シタル物件ヲ合
 シテ其全部ヲ受合ヒ又ハ其一部ヲ受合フ
 ヲ得可シ
 又平和ノ時或ハ戦闘ノ時又ハ出帆前或ハ出
 帆後ニ受合ヲ為スヲ得可シ
 又船ノ往返共ニ受合ヲ為シ又ハ往路或ハ歸
 路ノミニ付キ受合ヲ為シ又ハ航海ノ時間ノ
 全部又ハ一部ニ付キ受合ヲ為シ又ハ別段定
 メタル期限間受合ヲ為スヲ得可シ

又海路ノ運送又ハ河川ノ運送又ハ溝渠ノ運
 送ニ付キ受合ヲ為スヲ得可シ

第三百三十六條 若シ受合ヲ為サシムル物件
 ノ價ヲ述フルニ付キ詐偽アル時又ハ現ニ在
 ラサル物件ヲ在リト述ヘタル時又ハ物件ヲ
 贋造シタル時ハ受合ヲ為ス者其物件ヲ検査
 レテ之ヲ評價セシムルヲ得可シ但シ此等
 ノ事ニ付キ受合ヲ為ス者損害ヲ蒙リタル時
 ハ其償ヲ得ント訴ヘ又犯罪ヲ訴フルヲ得
 可シ 第三百五十七條 見合

第三百三十七條

「ルバン」ノ地方

即チ埃及ヨリ
黒海ニ至ル迄

ノ地方又ハ亞非利加ノ海岸又ハ其他ノ地方ヨリ歐羅巴ニ向ケ差送ル可キ積荷ハ如何ナル船ニ積入レタルヲ問ハズ別段船及ヒ船長ノ名ヲ記スルヲナク之ヲ受合ハシムルヲ得可シ

又此場合ニ於テハ積荷ノ性質及ヒ種類ヲ記スルヲナク之ヲ受合ハシムルヲ得可シ然レ氏受合ノ契約書ニハ其積荷ヲ受取ル可キ者又ハ之ヲ預カル可キ者ノ姓名住所等ヲ

記ス可シ但シ之ニ及シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第三百三十八條

受合ヲ為ス物件ノ價ヲ外國

ノ貨幣ニテ見積リタル時ハ受合ノ契約書ニ姓名ヲ手署スル時其貨幣ノ佛蘭西ニテ通用スル相場ニ從ヒ價ヲ定ム可シ

第三百三十九條

若シ受合ヲ為サシムル積荷

ノ價ヲ受合ノ契約書ニ記スルヲナキ時ハ賣買勘定書又ハ簿冊ニ據テ其價ヲ定ム可シ若シ又其勘定書又ハ簿冊ノアラサル時ハ其荷

物ヲ積入ル、時其地ニ於テ其物件賣買ノ相場ニ從ヒ其價ヲ定ム可シ但シ其荷物ヲ積入ル、ニ付テノ稅銀及ヒ費用高ハ其價ノ中ニ算入ス可シ

第三百四十條 若シ貨幣ヲ用ヒス物ト物ト交換スル國ニ物件ヲ送り其物件ニ換ヘ他ノ物件ヲ得テ之ヲ本國ニ送り届クル途中其受合ヲ為サシムル時其受合ノ契約書ニ其價ヲ記セサルニ於テハ嘗テ交換ノ為メ差送りタル物件ノ價ニ從テ其價ヲ定ム可シ但シ運送ノ

費用ハ其價ノ中ニ算入ス可シ

第三百四十一條 若シ受合ノ契約書ニ其受合ヲ為スニ付テノ期限ヲ記セサル時ハ第三百二十八條ニ記シタル如ク其期限ノ終始ヲ定ム可シ

第三百四十二條 受合ヲ為ス者ハ自己ノ受合ヲタル物件ヲ更ニ他人ニ受合ハシムルヲ得可シ

又受合ヲ為サシムル者ハ受合ヲ為ス者ノ得タル利金ヲ己レニ拂ヒ還サシムル為メ船又ハ荷

物ヲ失フ更ニ他人ヲシテ其受合ヲ為サシム
タル時
ルヲ得可シ

更ニ受合ヲ為スニ付テノ利金ハ初メ受合ヲ
為スニ付テノ利金ヨリ更ニ多ク又ハ少ナキ
ヲ得可シ

第三百四十三條 平和ノ時受合ノ契約ヲ為シ
後ニ戦鬪ノ起リタルニ因リ其受合利金ヲ増
ス可キ高ク別段契約書ニ定メ置カサル時ハ
裁判所ニテ危難ノ多少及ヒ其時ノ模様ト契
約ノ次第トニ注意シテ其增高ヲ定ム可シ

第三百四十四條 船長自己ノ算計ニテ船ニ積
入レタル荷物ヲ受合ハシメ後ニ之ヲ失フタ
ル時ハ船長受合ヲ為ス者ニ對シ己レノ為メ
其荷物ヲ買入レタルノ證ヲ立テ且乗組人中
重立タル者二人ハ姓名ヲ手署シタル積荷目
録ヲ渡ス可シ

第三百四十五條 佛蘭西ニテ受合ノ契約ヲ為
シタル商品ヲ外國ヨリ持来ル乗組人又ハ旅
客ハ其商品ヲ積入レタル港ニ於テ佛蘭西領
事官ニ其積荷目錄ヲ渡ス可シ若シ領事官ア

ラサル時ハ著名ナル佛蘭西商人又ハ其地ノ官吏ニ之ヲ渡ス可シ

第三百四十六條 若シ受合ヲ為ス期限間ニ受合ヲ為ス者家資分散ヲ為スコアル時ハ受合ヲ為サシムル者受合ヲ為ス者ヲシテ保證人ヲ立テシメ然ラサレハ其契約ヲ取消スコヲ得可シ

又受合ヲ為サシムル者家資分散ヲ為シタル時ハ受合ヲ為ス者同一ノ權アリトス

第三百四十七條 左ノ諸件ヲ目的ト為ス受合

ノ契約書ハ其効ナカサル可シ

船中ニアル積荷ノ運賃

後日商品ヨリ得ントスル利得

海客即チ乗組人等ヲ云フノ雇賃

船又ハ積荷ヲ引當トシテ借リタル金高第三百三十四條見合

船又ハ積荷ヲ引當トシ貸シタル金高ノ利金

第三百四十八條 受合ヲ為サシムル者船ヲ艤送シ又ハ荷物ヲ差送ルニ付キ事實ヲ偽リ述

へ又ハ受合ノ契約書ト積荷目録ト差違アル
 二因リ受合ヲ為ス者ヲシテ誤テ其受合ノ危
 難ヲ實ヨリ更ニ少キト思ハシメ又ハ其危
 難ノ模様ヲ誤ラシムルヲアル時ハ受合ヲ為
 ス者受合ノ契約書ヲ取消ス可シ
 縱令其詐偽又ハ差違ノ為メ受合ヲタル物件
 ノ滅盡破損スルヲナキ時ト雖モ亦其受合ノ
 契約書ヲ取消ス可シ

○第二章 受合ヲ為ス者及ヒ受合ヲ為
 サシムル者ノ義務

第三百四十九條 受合ヲ為サシムル者ノ所為

ニ因ルト因ラサルトヲ問ハス航ノ出帆セサ
 ル前ニ其航海ヲ止メタル時ハ受合ノ契約書
 ヲ取消ス可シ

但シ受合ヲ為ス者ハ償ノ名義ニテ受合高ノ
 百ニ付キ半即チ百圓ニ付キ五十ヲ受ク可シ

第三百五十條 風波ニ逢テ破船スル事暗礁
 暗沙ニ乗上ル事船ト船ト突當ル事已ムヲ得
 スシテ航海ノ路筋ヲ変スル事又ハ船ヲ易フ
 ル事船及ヒ荷物ヲ救フ為メ其荷物ノ一部ヲ

海中ニ投入ル、事火災ニテ燒失スル事、敵ノ為メ掠奪ニ逢フ事、本國又ハ外國ノ命ニテ航海ヲ差留メラル、事、戦闘ノ起ル事、本國ニテ外國ノ船ヲ差押ヘタル償トシテ外國ニテ本國ノ船ヲ差押ユル事、其他何事ニ因ラズ航海中偶然ニ生シ来リシ事ニ因リ受合ヲ為シタル物件ヲ失ヒ又ハ損害シタル時ハ受合ヲ為シタル者ノ引受タル可シ

第三百五十一條 受合ヲ為サシムル者ノ所為ニ因リ航海ノ路筋ヲ變シ又ハ船ヲ易ヘ又ハ

其他ノ事ニテ物件ヲ失ヒ或ハ破損セシメタル時ハ受合ヲ為ス者之ヲ引受クルニ及ハス但シ此場合ニ於テ既ニ受合ヲ為ス期限内ナル時ハ出帆後受合ヲ為ス者其受合ノ利金ヲ受クルヲ得可シ

第三百五十二條 受合ヲ為シタル物件ノ不良ナルニ因リ其物件卑惡ニ至リ或ハ其分量減少シ或ハ其滅盡シタル時又ハ船主或ハ荷主ノ所為及ヒ過失ニ因リ其物件ニ害ヲ加ヘタル時ハ受合ヲ為ス者之ヲ引受クルニ及ハス

第三百二十六條見合

第三百五十三條 船長又ハ乗組人ニ詐偽及ヒ過失アル時ハ受合ヲ為ス者同上ノ諸事ヲ引受クルニ及ハス但シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別ナリトス

第三百五十四條 水先案内ノ税銀引船ノ税銀水先案内船ヲ出ス税銀並ニ其他船及ヒ積荷ニ付キ出シタル税銀ハ受合ヲ為ス者之ヲ引受クルニ及ハス外ナリ受合高ノ

第三百五十五條 麥又ハ塩等ノ如ク次第ニ其

分量減少シ或ハ卑惡ニ至ル可キ性質ノ物件又ハ流出スルコトアル可キ物件アル時ハ受合ノ契約書ニ之ヲ記ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ其物件ヲ失ヒ又ハ減損スルコトアリトモ受合ヲ為ス者之ヲ引受クルニ及ハス但シ受合ヲ為サレムル者契約書ニ姓名ヲ手署レタル節其物件ノ種類ヲ知ラサル時ハ格別ナリトス第三百三十條見合

第三百五十六條 船ノ往返共ニ其積荷ニ付キ受合ノ契約ヲ為シタル時歸路ニ全ク荷物ヲ

積入ル、トナク又ハ荷物ノ不足ナルニ於テ
 ハ受合ヲ為ス者往返ノ為ノ契約セシ受合利
 金高ニ割合フタル其三分ノ二ヲ受ク可シ但
 シ之ニ反シタル契約アル時ハ格別トリトス
 第三百五十七條 積荷ノ實價ニ過キタル高ニ
 付キ受合ノ契約ヲ為シ又ハ受合ノ利金ヲ更
 ニ受合ハシムル契約ヲ為シタル時受合ヲ為
 サレムル者ニ詐偽ノ證アルニ於テハ其者ノ
 ミニ付キ其契約ノ効ナカル可レ縦令ヒ積荷
ヲ失フテ積荷
アリト雖モ受合ヲ為サレタル者其償ヲ受ル
ト得スレテ船ノ安着ヒタル時ハ受合ヲ為ス

者ニ其利金ヲ拂
 フ可キヲ云フ

第三百五十八條 又受合ヲ為サレムル者ニ詐
 偽ノ證ナキ時ハ評價レタル所ニ從ヒ其積荷
 ノ實價ニ充ル迄其受合契約ノ効アリトス
 其積荷ヲ失フアル時ハ受合ヲ為ス各人其
 受合フタル高ニ准シテ損失ノ分前ヲ擔當ス
 可シ
 此條ノ場合ニ於テハ受合ヲ為ス者積荷ノ實
 價ニ過キタル高ニ付キ其利金ヲ受クルヲ
 得ス唯百ニ付キ半ノ償ノミヲ得可シ

第三百五十九條 若シ受合ヲ為サシムル者ニ
 詐偽ナクシテ一箇ノ積荷ニ付キ數箇ノ受合
 契約ヲ為シタル時最初ノ契約書ニ記シタル
 高其積荷ノ全價ニ充ルニ於テハ其最初ノ契
 約書ノミノ効アリトス
 後ニ契約ヲ為シタル受合人ハ皆其義務ヲ免
 レ其受合高ノ百ニ付キ半ノ償ヲ得可レ
 若シ最初ノ契約書ニ記シタル高其積荷ノ全
 價ニ充タサル時ハ次ニ契約ヲ為シタル受合
 人其不足ノ高ヲ擔當ス可レ但シ第三次第四

次等ノ受合人ニハ各其順序ニ從ヒ其規則ヲ
 通シ用フ可レ

第三百六十條 若シ前條ニ記シタル場合ニ於
 テ積荷ノ一部ヲ失フコトアル時ハ受合ヲ為ス
 數人各其管係アル高ノ割合ヲ以テ其損失ノ
 分前ヲ擔當ス可

第三百六十一條 別段指定ノタル船數艘ニ荷
 物ヲ積入ル可キ約束ニテ此船ニ積入レタル
 荷物ノ受合高ハ幾許彼船ニ積入レタル荷物
 ノ受合高ハ幾許タルヤヲ定メ其數箇ノ積荷

ニ付キ受合ノ契約ヲ為シタル時其約束ニ違
 ヒ其荷物ノ全部ヲ唯一般ニ積入レ又ハ定メ
 置キタルヨリ更ニ少數ノ船隻ニ積入レタル
 ニ於テハ預メ指定メタル數艘ノ船皆破壊ス
 ルコトアリト雖モ受合ヲ為シタル者初メ定メ
 置キタル如ク現ニ船中ニ積入レタル荷物ノ
 分量ニ付キ契約書ニ記シタル受合高ヲ擔當
 シ其他ノ分量ニ付テハ之ヲ擔當スルニ及ハ
 ス但シ受合ヲ為シタル者ハ其他ノ分量ニ付
 キ定メ置キタル受合高ノ百ニ付キ半ヲ償ト

シテ受取ル可シ
 第三百六十二條 若シ船長積荷ノ分量ヲ全ク
 スル為メ又ハ之ヲ他ノ品物ト交換スル為メ
 途中所々ノ港ニ入ルコトヲ得可キノ許ヲ得タ
 ル時ハ受合ヲ為ス者其積荷ノ船中ニアル時
 ノニ其積荷ノ受合ヲ擔當ス可シ但シ之ニ反
 シタル契約アル時ハ格別ナリトス
 第三百六十三條 受合ヲ為スニ付キ別段其期
 限ヲ定メ置キタル時ハ受合ヲ為ス者其期限
 ノ終リニ至テ其義務ヲ免レ受合ヲ為サシム

ル者ハ更ニ改メテ其受合ヲ為サレムルヲ得可シ

第三百六十四條 若シ受合ヲ為サレムル者契

約書ニ記シタルヨリ更ニ遠キ地ニ船ヲ送ル

ルアル時ハ其地契約書ニ記シタル地ト同一

ノ路筋タルト否トヲ問ハス受合ヲ為ス者其

義務ヲ免レ其利金ヲ受クルヲ得可シ

若シ又契約書ニ記シタルヨリ更ニ近キ地ニ

船ヲ送リタル時ハ總テ契約書ノ効アリトス

第三百六十五條 若シ既ニ物件ヲ失フタル後

ニ其受合ヲ為サレムルヲアリテ其受合ヲ為

サレムル者其受合ノ契約書ヲ記セシ時既ニ

其物件ヲ失フタルヲ知リタル可シト思料

シ得可キニ於テハ其契約書ノ効ナカル可シ

又物件ノ既ニ安着シタル後ニ其物件ヲ受合

フヲアリテ其受合ヲ為ス者其契約書ヲ記セ

シ時既ニ其物件ノ安着シタルヲ知リタル

可シト思料シ得可キニ於テハ亦其契約書ノ

効ナカル可シ

第三百六十六條 着船ノ地又ハ破船ノ地或ハ

其著船又ハ破船ノ最初ノ報告届キタル地ヨ
 リ受合ノ契約ヲ為シタル地ニ至ル迄路程一
 「ミリアメートル」ノ四分ノ三毎ニ一時ヲ算ヘ
 其契約ヲ為ス前ニ其報告ノ達シ得可キ時ハ
 受合ヲ為サシムル者又ハ受合ヲ為ス者前條
 ニ記シタル如ク物件ヲ失フタル「又ハ物件
 ノ安着シタル」ヲ既ニ知リタルト思料ス可
 シ
 第三百六十七條 物件ノ安着シタル由ノ風説
 又ハ物件ヲ失フタル由ノ風説ヲ得タル上ニ

テ其受合ノ契約ヲ為シタル時ハ前二條ニ記
 シタル如キ思料ヲ許サス
 此場合ニ於テハ受合ヲ為ス者ヨリ之ヲ為サ
 シムル者其契約ヲ為ス前ニ慥ニ其物件ヲ失
 ヒシ「ヲ」ヲ知リタルノ證ヲ立テ又ハ受合ヲ為
 サシムル者ヨリ之ヲ為ス者其契約ヲ為ス前
 ニ慥ニ其物件ノ安着シタル「ヲ」ヲ知リタルノ
 證ヲ立テサレハ其契約書ヲ取消ス可カラス
 第三百六十八條 受合ヲ為サシムル者ニ前數
 條ニ記シタル詐偽ノ證アル時ハ其者ヨリ受

合ヲ為ス者ニ受合利金高ノ二倍ヲ拂フ可シ
 又受合ヲ為ス者ニ其詐偽ノ證アル時ハ其者
 ヨリ受合ヲ為サシムル者ニ受合利金ノ二倍
 ニ當ル高ヲ償フ可シ
 又其詐偽ノ證アル者ハ懲治罪裁判所ニ犯罪
 ノ訴ヲ受ク可シ

○第三章 受合ヲ為サシムル者之ヲ為
 ス者ニ物件ヲ拋棄シテ受合高ヲ得
 ント求ムル事 敵ニ奪ハレ又ハ海底
 之ヲ受合人ニ拋棄シテ受合
 高ヲ得ント求ムルヲ得可シ

第三百六十九條

左ニ記列スル場合ニ於テハ

受合ヲ為サシメタル者其受合ノ物件ヲ拋棄

シテ其受合高ヲ己レニ得ント求ムルヲ得

可シ此等ノ場合ニ於テ必モ物件ヲ拋棄ス
 ルニ及ハス矢張物件ヲ保チ置キテ其損
 害ノ償高ノ自由ヲ得シ

敵ノ為メ掠奪ニ逢フタル時

風波ノ為メニ破船シタル時

暗礁入ハ暗沙ニ乗掛ケ船ノ破損シタル時

海上ニテ危難ニ逢ヒ船ノ航海ニ堪ハサル

ニ至リシ時

外國ノ命ニテ船ヲ差留メラレタル時

受合ヲ為サシメタル積荷ノ減シ又ハ其積

荷ノ破損シタル時但シ減損シタルニ因リ

其積荷ノ價ノ減シタル事總高ノ四分三以

上ナル時ニ限ル可シ四分三以下ナル時

ハ抛棄ヲ為ス可カラ

シト意外ノ損費ノ償ヲ得佛蘭西政府ヨリ船ヲ差留ム可キ命ヲ下シ

タル時

第三百七十條 其抛棄ハ出帆ノ前ニ為ス可カ

ラス

第三百七十一條 第三百六十九條ニ記シタル

以外ノ損害ハ皆意外ノ損費第三百六十九條以下見合

リト看做レ受合ヲ為ス者ト為サシムル者ト

ノ契約ニ循テ其償ヲ擔當ス可シ此場合ニ於

テハ受合ヲ

第三百七十二條 受合ヲ為サシメタル物件ヲ

抛棄スルトハ即時ニ全ク之ヲ為ス可クシテ

別段ノ約束ヲ加ハ又ハ物件ノ一部ノニニ付

キ之ヲ為スヲ許サス

受合ヲ為サシメタル以外ノ物件ハ之ヲ抛棄

シテ受合高ヲ得ント求ム可カラス
 第三百七十三條 一千八百六十二年五月三日左
 、如ク改ム歐羅巴洲ノ港又ハ海岸及ヒ地中
 海ニ沿フタル亞細亞洲又ハ亞非利加洲ノ港
 又ハ海岸ニ於テハ受合ヲ為サシメタル物件
 ヲ失フタルノ音信本國ニ達シタルヨリ六月
 間又敵ノ為メ掠奪ニ逢フタル時ハ敵船此等
 ノ港又ハ海岸ニ其掠奪シタル船ヲ引入レタ
 ルノ音信本國ニ達シタルヨリ六月間ニ其受
 合ヲ為サシメタル者受合ヲ為レタル者ニ其

物件ヲ拋棄ス可シ○喜望峰ヨリ近キ亞非利
 加洲ノ港又ハ海岸及ヒホルン岬ヨリ近キ亞
 米利加洲ノ港又ハ海岸ニ於テハ同上ノ音信
 本國ニ達シタルヨリ一年間ニ其拋棄ヲ為ス
 可シ○其他ノ地方ニ於テハ其期限ヲ十八ヶ
 月トス○此等ノ期限ヲ過クル時ハ受合ヲ為
 サシメタル者其拋棄ヲ為ス可カラス
 第三百七十四條 拋棄ヲ為スヲ得可キ場合
 及ヒ其他受合人ノ引受タル可キ意外ノ事
 リニ場合ニ於テハ受合ヲ為サシメシ者其音

信ヲ得タルヨリ三日内ニ受合ヲ為ス者ニ其
旨ヲ報告ス可シ

第三百七十五條 〔千八百六十二年五月三日左

ノ如ク改ム〕通常ノ航海ニ付テハ出帆ノ日ヨ
リ六月ノ時間又ハ最終ノ音信ヲ得タル日ヨ
リ六月ノ時間其船ノ音信ヲ得ルトナク又遠
路ノ航海ニ付テハ一年ノ時間其音信ヲ得ル
トナキ時ハ此等ノ期限ノ終リニ至リ受合ヲ
為サシメシ者其音信ヲキ旨ヲ申立テ其物件
ヲ抛棄シ受合高ヲ得ント求ムルトヲ得可ク

別段船ヲ失フタルノ證ヲ立ルニ及ハス○受
合ヲ為サシメタル者ハ此條ニ記シタル六月
又ハ一年ノ期限ノ終リシヨリ後第三百七十
三條ニ記シタル期限内ニ其物件ノ抛棄ヲ為
ス可シ

第三百七十六條 通常ノ航海ト遠路ノ航海ト

ヲ問ハス受合ヲ為スニ付テノ期限ヲ別段定
メ置キタル時前條ニ記シタル期限内ニ音信
ヲ得サルニ於テハ其受合ニ付キ定メタル期
限内ニ船ヲ失フタルト看做ス可シ

第三百七十七條 〔千八百五十四年六月十四日

左ノ如ク改ム〕左ニ記シタル限外ニ出ル航海

ハ遠路ノ航海ナリトス

南方ハ北緯三十度

北方ハ北緯七十二度

西方ハ巴里ノ子午線ヨリ西經十五度

東方ハ東經四十四度

第三百七十八條 受合ヲ為サシメシ者ハ第三
百七十四條ニ記シタル如ク報告ヲ為シ其受
合ハシメタル物件ヲ直チニ拋棄シテ契約書

ニ記シタル期限内ニ其受合高ヲ受取ル可キ
旨ヲ受合ヲ為シタル者ニ要メ又ハ法律上ニ
定メタル期限内即チ第三百七
十三條ノ期限ニ拋棄ヲ為ス
コトヲ得可シ

第三百七十九條 受合ヲ為サシメシ者其物件
ヲ拋棄スルニ付テハ嘗テ其為シタル所ノ總
テノ受合ノ契約又ハ名代人ヲ任シ為サシメ
タル總テ受合ノ契約ヲ受合高ノ拂ヲ求ムル
受合人ニ逐一報告シ且船又ハ積荷ヲ引當ト
シテ借入レタル金高ヲ報告ス可シ若シ其報

告ヲ為サ、ル時ハ之ヲ為スニ至ル迄受合高ノ拂期日ヲ延ハス可シ但シ之カ為メ第三百七十三條ニ記シタル拋棄ノ期限ヲ別段延ハスコトヲ得ス

第三百八十條 受合ヲ為サレムル者其報告ヲ為スニ付キ詐偽アル時ハ受合ヲ為サシメタルニ因リ其得可キ權利ヲ失ヒ且船ヲ失フタルニ管セス引當品ヲ以テ借入レタル金高アラハ之ヲ返却ス可シ

第三百八十一條 風波ノ為メ破船シタル時又

ハ暗礁暗沙ニ乗掛ケ船ノ破損シタル時ハ受合ヲ為サシメタル者破船ノ後水中ヨリ取出シ得可キ物件ヲ取出スコトヲ勉ム可シ但シ之カ為メ法律上ニ定メタル期限ト場所トニ於テ其拋棄ヲ為スノ權ヲ行フノ差支トナルコトナカル可シ
其受合ヲ為サシメタル者ノ誓ヲ為レタル上ニテ其物件ヲ水中ヨリ取出スノ費用高ヲ受合人ヨリ償ハシム可シ但シ其受合人ヨリ償ハシムル高ハ取出シタル物件ノ價ニ過ルコト

ナカナル可シ

第三百八十二條 受合ノ契約書ニ受合高ヲ拂
フ可キ期日ヲ別段定メサル時ハ受合ヲ為シ
タル者之ヲ為サシメタル者ヨリ物件ヲ拋棄
ス可キ旨ノ報告ヲ得タルヨリ三月内ニ其受
合高ヲ拂フ可シ

第三百八十三條 受合ヲ為サシメタル者受合
ヲ為シタル者ニ對シテ受合高ヲ得ントスルノ
訴ヲ為スニハ其前ニ積荷ヲ為シタルニ付テ
ノ證書積荷目録ノ及ヒ之ヲ失フタルニ付テ

ノ證書ヲ受合ヲ為シタル者ニ送達ス可シ

第三百八十四條 受合ヲ為シタル者ハ之ヲ為
サシメタル者ノ立タル證ト相反シタル證ヲ
立ルコトヲ得可シ

受合ヲ為シタル者ハ同上ノ證ヲ立ルコトヲ得
可シト雖モ受合ヲ為サシメタル者保證人ヲ
立テ假リニ受合高ヲ得可キ裁判言渡ヲ得ル
コトヲ中止ス可カラス

其保證人ヲ立テタルヨリ四年ノ時間受合ヲ
為シタル者ヨリ訴ヲ為サル時ハ保證人其

義務ヲ免ル可シ

第三百八十五條 受合ヲ為サシメタル者其受合ヲ為サシメシ物件ヲ抛棄スル旨ヲ受合ヲ為シタル者ニ報告シ其者之ヲ承諾シタル時又ハ其者之ヲ承諾セスト雖モ裁判所ヨリ其抛棄ノ法ニ適シタル旨ヲ言渡シタル時ハ其受合ヲ為サシメタル物件其抛棄ノ日ヨリ以來受合ヲ為スル者ノ所有トナル可シ

受合ヲ為シタル者ハ船ノ歸着スルヲ口實ト為シ其受合高ヲ拂フ可キノ義務ヲ免ル可シ

カラス

第三百八十六條 船主其船賃ヲ既ニ受取リタルト否トヲ問ハス船ヲ抛棄シタル時ハ其船賃モ亦之ヲ抛棄ス可シ但シ此規則ヲ以テ船ヲ引當品ト為シ金高ヲ貸シタル者ノ權利水夫等ノ雇料ヲ得可キ權利並ニ航海中ノ費用高ヲ出シ置キタル者ノ權利ヲ害スルヲナカル可シ

第三百八十七條 外國ノ命ニテ船ヲ差留メラレタル時ハ受合ヲ為サシメシ者其音信ヲ得

タルヨリ三日内ニ受合ヲ為シタル者ニ其旨ヲ報告ス可シ

歐羅巴洲ノ海、地中海、バルチク海ニ於テ其差留ヲ受ケタル時ハ其差留ノ音信ヲ得タル旨ヲ報告シタルヨリ六月ノ期限ノ後ニ非サレハ受合ヲ為サレメタル物件ヲ抛棄ス可カラス

又更ニ遠キ海ニ於テ其差留ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ報告シタルヨリ一年ノ後ニ非サレハ其抛棄ヲ為ス可カラス

若シ差留ヲ受ケタル物件腐敗滅盡ス可キ性質アル時ハ歐羅巴洲ノ海、地中海、バルチク海ニ於テハ六月ノ期限ヲ減シテ一月半ト為シ又更ニ遠キ海ニ於テハ一年ノ期限ヲ減シテ三月ト為ス可シ

第三百八十八條 前條ニ記シタル期限内ニ受合ヲ為サレメタル者ハ其差留ヲ受ケタル物件ノ放除ヲ得ント盡カス可シ

受合ヲ為シタル者モ亦之ヲ為サレメタル者ト戮カシ又ハ其者ト各自ニ差留メラレシ物

件ノ放除ヲ得ント盡カス可シ

第三百八十九條 破損シ又ハ暗礁暗沙ニ乗掛

ケタル船之ヲ引出シテ修復ヲ加ヘ其赴カニ

トスル場所ニ到ルヲ得可キ有様ト為シ得可

キ時ハ其船航海ヲ為スニ堪ヘサルヲ以テ口

實ト為シ之ヲ抛棄スルヲ得ス

此場合ニ於テハ受合ヲ為サシメタル者受合

ヲ為シタル者ニ對シ其破船ニ付テノ費用及

ト意外ノ損費第三百九十七條以下見合ノ償ヲ得ント要

ムルヲ得可シ

第三百九十條 船若シ航海ヲ為スニ堪ヘサル

ニ至リシ證ヲ鑑定人此證アル時ハ其積荷ニ付

キ受合ヲ為サシメタル者其音信ヲ得タルヨ

リ三日内ニ受合ヲ為シタル者ニ其音ヲ報告

ス可シ第三百七十四條見合

第三百九十一條 前條ノ場合ニ於テハ船長其

積荷ヲ他ノ船ニ積入レ之ヲ差向ケ送ル可キ

場所迄運送スルニ盡カス可シ

第三百九十二條 前條ノ場合ニ於テハ其積荷

ヲ他ノ船ニ積入レ之ヲ差向ケ送ル可キ場所

ニ運送シテ其陸揚ヲ為ス時ニ至ル迄受合ヲ為シタル者其積荷ヲ擔當ス可シ

第三百九十三條 又受合ヲ為シタル者ハ意外ノ損費陸揚ノ費用、倉庫ノ借貸、他ノ船ニ積入ル、費用、船賃ノ增高及ヒ其他積荷ヲ救フニ付テノ費用ヲ其受合高ニ充ル迄擔當ス可シ

第三百九十四條 若シ第三百八十七條ニ記シタル期限内ニ船長其積荷ヲ積易ヘ差送ル可キ他ノ船ヲ見出スト能ハサル時ハ受合ヲ為サシメタル者其積荷ヲ拋棄スルヲ得可シ

第三百九十五條 受合ノ物件敵ノ為メ掠奪セ

ラレシ時受合ヲ為サシメタル者ヨリ受合ヲ為シタル者ニ其旨ヲ報告スルヲ能ハサルニ於テハ其受合ヲ為サシメタル者受合ヲ為シタル者ニ相談セスシテ其物件ヲ贖戻スルヲ得可シ

受合ヲ為サシメタル者ハ其贖戻ノ約束書ヲカメテ速カニ受合ヲ為シタル者ニ送達ス可シ

第三百九十六條 受合ヲ為シタル者ハ其贖戻

ノ約束書ヲ承諾シ又ハ承諾セサルト隨意ナ
 リトス但シ其承諾ヲ為サ、ルト否トハ其約
 束書ノ送達ヲ得タルヨリ二十四時間ニ返答
 書ニ記シテ之ヲ受合ヲ為サシメタル者ニ送
 ル可シ
 受合ヲ為シタル者贖戻ノ約束書ヲ承諾シタ
 ル時ハ其管係アル高ニ准シ遅延ナク其約束
 書ニ循ヒ贖戻ノ金高ヲ拂フ可シ但シ其後ニ
 於テモ受合ヲ為シタル者ハ受合ノ契約ニ循
 ヒ猶其贖戻シタル物件ヲ受合フ可シ

又受合ヲ為シタル者贖戻ノ契約ヲ承諾セサ
 ル時ハ受合高ヲ拂フ可シ但シ其贖戻シタル
 物件ハ之ヲ已レニ得ント要ム可カラス
 若シ受合ヲ為シタル者前ニ記シタル二十四
 時間ノ期限ニ其答書ヲ記シテ差送ラサル時
 ハ贖戻ノ約束書ヲ承諾セサルト看做ス可シ

○第十一卷 意外ノ損費ノ事

〔第十一卷ヨリ第十四卷ニ至ル迄ノ數卷ハ干

八百七十九年九月十五日決定同月廿七日布告

第三百九十七條 船ト積荷トノ双方ニ付キ又ハ船或ハ積荷ノ一方ニ付キ為シタル意外ノ費用

船ニ荷物ヲ積入レ出帆シタルヨリ其歸着シテ且荷物ヲ卸スニ至ル迄ノ時間船及ヒ積荷ニ受ケタル損害

此等ノ費用及ヒ損害ヲ指シテ意外ノ損費トス

第三百九十八條 船主荷主等ノ間ニ別段ノ契

約アラサル時ハ後ノ數條ニ記スル所ニ循ヒ意外ノ損費ヲ處置ス可シ

第三百九十九條 意外ノ損費ヲ分テ二種トス

一ハ船ト積荷トノ双方ニテ搭當ス可キ意外ノ損費又一ハ船或ハ積荷ノ中一方ノミニテ搭當ス可キ意外ノ損費是ナリ

第四百條 左ニ記スル諸件ハ双方ニテ搭當ス可キ意外ノ損費ナリトス

第一 船ト積荷トヲ敵ヨリ贖戻ス金高

第二 船ト積荷トヲ救フ為メ海ニ投入レ

物件

第三 壊レ又ハ切レタル錨網又ハ樯

第四 船ト積荷トヲ救フ為メ海中ニ打捨テタル錨又ハ其他ノ器具

第五 積荷ノ一部ヲ海ニ投入ル、ニ付キ其餘ノ積荷ニ加ヘタル損害

第六 船ヲ守リテ敵ト戦ヒ創傷ヲ被リタル水夫等ハ治療及ヒ飲食ノ費用、船ヲ月借ニ為シタル時外國ノ命ニテ其船ヲ差留メラレシ時間水夫等ノ雇賃及ヒ飲食

ノ費用並ニ船ヲ月借ニ為シタル時船ト積荷トヲ救フ為メ其船ノ受ケタル損壊ヲ修復スル時間水夫等ノ雇賃及ヒ飲食ノ費用 第四百三條見合

第七 風波ノ為メ又ハ敵船ニ追ハレシニ因リ已ムヲ得スニテ船ヲ河口又ハ港口ニ入ル、ニ付キ其船ヲ輕クナス為メ積荷ノ一部ヲ卸ス費用

第八 船ト積荷トヲ全ク失ヒ又ハ全ク掠奪ニ逢フヲ避クル為メ故ヲニ洲沙ニ乗

掛カ其船ヲ再ヒ浮揚セシムルニ付キ為シタル費用

其他總テ船ニ荷物ヲ積入レ出帆シタルヨリ歸着シテ荷物ヲ卸スニ至ル迄ノ時間船ト積荷ト双方ノ安全ノ為メ商議ノ上故ラニ受ケタル損害及ヒ費用

第四百一條 船ト積荷ト双方ニテ擔當ス可キ意外ノ損費ハ積荷ノ全價ト船ノ價ノ半並ニ船賃ノ半トノ割合ヲ以テ各其分前ヲ擔當ス可シ

第四百二條 積荷ノ價ハ荷卸ヲ為ス地ノ相場ニ從テ之ヲ算計ス可シ

第四百三條 左ニ記列スル諸件ハ船或ハ積荷ノ一方ノミニテ擔當ス可キ意外ノ損費ナリトス

第一 積荷ノ質不良ナルニ因リ又ハ風波ニ逢ヒ或ハ敵ノ為メ掠奪セラレ或ハ破船ヲ為シタルニ因リ積荷ニ受ケタル損害

第二 其積荷ヲ救フニ付キ為シタル費用

第三 風波又ハ其他海上ニテ意外ノ禍ニ
 逢ヒ錨網、錨、帆、樯、網具等ヲ失フタル損費
 此等ノ物件ヲ失フタルニ因リ又ハ船ノ
 為メ必要ナル飲食料ヲ備フルニ因リ又
 ハ船内ニ水ノ浸入スルヲ防クニ因リ途
 中ニテ一時航海ヲ止メタルニ付テノ費
 用

第四 船ヲ航海中借入レタル時ハ其船外
 國ノ命ニテ差留メラレタル時間又ハ修
 復ヲ為ス時間水夫等ノ雇賃及ヒ飲食ノ

費用

第五 船ヲ航海中借入レ又ハ月借リニ為

シタルヲ問ハス檢病ノ期間
此期間

通船カランテイヲ水夫等ノ雇賃及ヒ飲食ノ費用

其他總テ船ニ荷物ヲ積入レ出帆シタルヨ

リ歸着シテ荷卸ヲ為スニ至ル迄ノ時間船

ノミノ為メ又ハ積荷ノミノ為メ生シタル

損害及ヒ費用

第四百四條 船又ハ積荷ノ中一方ノミノ擔當

ス可キ意外ノ損費ハ損害ヲ受ケタル物又ハ

費用ヲ生セシメタル物ノ持主之ヲ擔當ス可
レ

第四百五條 船長甲板ヨリ降ル入口ヲ鎖閉ス
ルニ怠リ又ハ船ヲ繫クトヲ怠リ又ハ荷物運
送ノ為メ相當ナル網具ヲ備フルトヲ怠リタ
ルニ因リ又ハ其他總テ船長及ヒ乗組人ノ懈
怠ヨリ生レタル意外ノ事ニ因リ積荷ニ損害
ヲ受ケタル時ハ其積荷ノ持主之ヲ擔當ス可
レ但レ此場合ニ於テハ其積荷ノ持主ヨリ船
長及ヒ船主ニ對シ船ノ價並ニ船賃ノ中ヨリ

其償ヲ得ント要ムルヲ得可シ

第四百六條 河口港口ノ出入ニ付キ水先案内
船ヲ出ス税銀引船ノ税銀水先案内ノ税銀出
帆免許狀ノ税銀船見改メノ税銀檢病ノ税銀
浮印港印ノ税銀碇泊場ノ税銀其他航海ヲ為
スニ付テノ税銀ハ意外ノ損費ト看做ス可カ
ラス船主ノ擔當ス可キ通常ノ費用ナリトス
第四百七條 偶然ノ事ニ因リ船ノ互ニ突當リ
損害ヲ受ケタル時ハ其損害ヲ受ケタル船ノ
持主損害ヲ受ケサル船ノ持主ニ對シ償ヲ得

ント要ム可カラス
 又一方ノ船長ノ過失ニ因リ船ノ互ニ突當リ
 ン時ハ損害ヲ受ケタル船ノ持主其過アル船
 長ノ乗組タル船ノ持主ニ對シ其償ヲ得ント
 要ムルヲ得可シ
 又其船ノ互ニ突當リタル原由疑ハシキ時ハ
 損害ヲ加ヘタル船ノ持主ト損害ヲ受ケタル
 船ノ持主ト双方ニテ同一ノ金高ヲ出合セ其
 損害ヲ修復ス可シ
 第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ鑑定人ヲ

シテ其損害ノ高ヲ積ラシム可シ

第四百八條 船ト積荷トノ双方ニテ擔當ス可

キ意外ノ損費船ノ價ト積荷ノ價トヲ合算シ

タル高ノ百分一ニ過キサル時又ハ一方ノ

ニテ擔當ス可キ意外ノ損費其損害ヲ受ケタ

ル物件價高ノ百分一ニ過キサル時ハ意外ノ

損費ノ為メ損害ノ償ヲ得ント訴フ可カラス

第四百九條 船又ハ積荷ノ受合ヲ為ス者其受

合シ契約書ニ意外ノ損費ヲ受合ハサル旨ヲ

別段記シ置キタル時ハ意外ノ損費ハ受合ス

唯物件ヲ拋棄スルニ

至ル可キ大災ノミヲ受合船ト積荷トノ双方
 ヲ約束ヲ為シタルヲ云フ受合船ト積荷トノ双方
 ニテ擔當ス可キト一方ノミニテ擔當ス可キ
 トヲ問ハス受合人總テ意外ノ損費ヲ擔當ス
 ルニ及ハス唯其拋棄ニ至ル可キ場合ノミヲ
 擔當ス可シ但シ此場合ニ於テハ受合ヲ為サ
 シタル者其物件ヲ拋棄スルト又ハ意外ノ
 損費ノ償ヲ要ムルト自由ナリトス

○第十二卷

投荷ノ事及ヒ投荷ニ付テノ

損失ヲ擔當スル割合ノ事

第四百十條 風波ニ逢ヒ又ハ敵船ニ追ハレタ
 ルニ因リ船長船ヲ救フ可キ為メ已ムヲ得ス
 シテ其積荷ノ一部ヲ海ニ投入レ又ハ櫓ヲ切
 リ或ハ錨ヲ棄ツ可キ時積荷ニ管係アル者其
 船中ニアルニ於テハ其者ト相談レ並ニ乗組
 人中ノ重立タル者ト相談ス可レ
 若シ其說各異ナル時ハ船長ト乗組人中重立
 タル者トノ說ニ從フ可シ

第四百十一條 船中ニアル荷物中ニテ最モ必

要ナラス且其量最モ重ク其價最モ少ナキ物
ヲ最モ先キニ海ニ投入レ次ニ船長乗組人中
其重立タル者ト相談ノ上甲板上ニアル積荷
ヲ投入ル可レ

第四百十二條 船長ハカメテ速カニ其相談ノ
旨ヲ書面ニ記ス可レ
其書面ニハ左件ヲ記ス可レ

荷物ノ投入ヲ決スルニ至ラレメタル原由
投入レタル物件又ハ其投入ヲ為スニ付損
害ヲ受ケタル物件

又其書面ニハ相談ニ預カリタル者姓名ヲ手
署シ又ハ其者姓名ヲ手署スルヲ肯セサル
旨ヲ附記ス可レ

其書面ハ簿冊ニ登記ス可レ

第四百十三條 其後初メテ着船シタル港ニ至
リ船長其到着ノ時ヨリ二十四時間ニ相談ノ
書面ニ記シタル諸件ヲ誓フ可レ

第四百十四條 荷卸ヲ為ス港ニ於テ船長鑒定
人ヲシテ損失ノ目錄ヲ記セシムルヲ訴フ
可レ

佛蘭西ノ港ニ於テ荷卸ヲ為ス時ハ商法裁判
 所ヨリ其鑒定人ヲ任ス可シ
 商法裁判所ノアラサル地ニ於テハ治安裁判
 役ヨリ其鑒定人ヲ任ス可シ
 又外國ノ港ニ於テ荷卸ヲ為ス時ハ佛蘭西領
 事官ヨリ其鑒定人ヲ任シ領事官アラサル地
 ニ於テハ其地ノ官吏ヨリ鑒定人ヲ任ス可シ
 其鑒定人ハ鑒定ニ取掛ル前ニ擔ヲ為ス可シ
 第四百十五條 海ニ投入レタル物件ノ價ハ荷
 卸ヲ為ス地ノ相場ニ從ヒ之ヲ積ル可シ但シ

其質ノ善惡ハ積荷目錄ヲ以テ之ヲ證シ又賣
 買ノ勘定書アルニ於テハ其勘定書ヲ以テ之
 ヲ證ス可シ
 第四百十六條 鑒定人ハ損失高ノ割附ヲ為ス
 可シ
 鑒定人ノ割附ハ裁判所ノ允許ヲ受ケタル上
 ニテ之ヲ執行フ可キモノト為ス可シ
 外國ノ港ニ於テハ佛蘭西領事官其割附ヲ允
 許シ又領事官アラサル時ハ其地ノ相當ナル
 裁判所ニテ之ヲ允許シ之ヲ執行フ可キモノ

ト為ス可シ

第四百十七條 其割附ハ海ニ投入レシ物品ノ全價並ニ存スルヲ得タル物品ノ全價ト船ノ價ノ半並ニ船賃ノ半トニ之ヲ為ス可シ但シ其物品又ハ船ノ價ノ荷卸ヲ為ス地ノ相場ニ循フ可シ

第四百十八條 若シ積荷ノ質ヲ積荷目録ニ偽リ記レタル時其積荷存スルヲ得テ鑑定人ニ其價ヲ積ラシメタルニ付キ其實價積荷目録ニ記スル所ヨリ更ニ貴キヲ知得タルニ

於テハ其見積リシ實價ニ准シテ損失高ノ割附ヲ為ス可シ若シ其積荷ヲ投入レ又ハ毀損シタル時ハ積荷目録ニ記スル所ノ價ニ准シテ其損失ノ償高ヲ算計ス可シ若シ又其實價積荷目録ニ記シタル價ヨリ更ニ少ナキ時其積荷存スルヲ得タルニ於テハ積荷目録ニ記シタル價ニ准シテ損失高ノ割附ヲ為ス可シ又其積荷ヲ海ニ投入レ又ハ毀損シタル時ハ其實價ニ准シテ其損失ノ償高ヲ算計ス可シ

第四百十九條 船ノ為ノ必要ナル兵器彈丸裝藥等モ亦此中及ヒ食料並ニ乗組人ノ衣服ハ積荷ヲ投入レタル損失償高ノ割附中ニ加フ可カラズ若シ此等ノ物ヲ海ニ投入レタル時ハ其損失ノ償高ヲ他ノ積荷及ヒ其他ノ諸件ニ割附ク可シ

第四百二十條 積荷目錄ニ記セサル積荷又ハ船長ニ届スレテ積入レタル積荷ハ存スルヲ得タル時ハ投入レシ物件ノ損失償高ノ割附ニ加フ可ク又海ニ投入レタル時ハ其損失

償高ヲ損スルヲ得シ物件ニ割附ク可カラス

第四百二十一條 甲板上ニ積入レシ物件存スルヲ得タル時ハ投入レシ物件ノ損失償高

ノ割附ニ加フ可シ又之ヲ投入レ又ハ毀損シタル時ハ其持主其損失ノ償高ヲ存在スル物件ノ持主ヨリ得シト要ム可カラス唯船長ニ對シ其償ヲ要ムルヲ得可シ第九條見合

第四百二十二條 積荷ノ投入ヲ容易ナラシムル為メ船ヲ毀損シタル時ノ外船ニ損害アリ

ト雖モ其償ヲ積荷ニ割附ク可カラス
 第四百二十三條 若レ積荷ヲ投入ル、ト雖モ
 船ヲ救フヲ能ハサル時ハ損失ノ償ヲ割附ク
 可カラス

此場合ニ於テ存スルヲ得タル積荷ハ投入レ
 又ハ毀損シタル積荷ノ損失ヲ償フニ付テノ
 割合ヲ擔當スルニ及ハス

第四百二十四條 若レ積荷ヲ投入レタルニ因
 リ船ヲ救フヲ得テ其後途中ニ於テ復タ船ヲ
 失フヲアル時ハ存スルヲ得タル物件其存ス

ルヲ得タル儘ノ價高中ヨリ之ヲ存セシム
 ルニ付テノ費用高ヲ減セテ割合ヲ以テ投入
 レタル物件ノ損失償高ノ割合ヲ擔當ス可シ

第四百二十五條 投入レタル物件ハ其投入ノ
 後存在スル物件ヲ更ニ損害スルヲアリト雖

モ其損失償高ノ割合ヲ擔當スルニ及ハス
 又積荷ハ破滅シタル船又ハ航海ヲ為スニ堪
 ハサルニ至リレ船ノ損失償高ノ割合ヲ擔當
 スルニ及ハス

第四百二十六條 船長乗組人等ト相談ノ上積

荷ヲ甲板下ヨリ引出ス為メ甲板ヲ穿チタル時ハ之カ為メ船ニ加ヘタル損害ノ償高ヲ積荷ニ割附ク可シ

第四百二十七條 河口又ハ港口ニ入ラントスルニ付キ船ヲ輕クナス為メ積荷ヲ小船ニ移シ之ヲ失フコトアル時ハ船ト他ノ積荷トニ其損失ノ償高ヲ割付ク可シ
又船ト其積荷トヲ共ニ失フタル時ハ小船ニ移シタル積荷存スルヲ得タルト雖モ其損失ノ償高ヲ小船ニ移シタル荷物ニ割付ク可カ

ラス

第四百二十八條 前數條ニ記シタル場合ニ於

テ船長及ヒ乗組人等ハ損失ノ割合高ヲ得ル為メ積荷又ハ其賣拂代金ニ付キ債主ノ特權ヲ有ス可シ

第四百二十九條 若シ損失ノ割附ヲ為シテ償ヲ得タル後ニ嘗テ投入レタル物件ノ持主其物件ヲ水中ヨリ取出スコトアルニ於テハ己レノ償トシテ得タル金高ヲ船長及ヒ其他管係アル者ニ還ス可シ但シ其還ス可キ高ノ中ヨ

リ海ニ投入レタルニ付キ物件ノ價ノ減シタル高並ニ之ヲ水中ヨリ取出スニ付テノ費用高ヲ減ス可シ

○第十三卷 期滿得免ノ事

第四百三十條 船長ハ期滿得免ノ權ニ因リ船ノ所有ノ權ヲ得可カラス

第四百三十一條 海上受合ヲ為サシメタル者受合ヲ為シタル者ニ其物件ヲ拋棄スル訴ヲ

為ス可キ期限ハ第三百七十三條ニ記シタル所ニ循フ可シ

第四百三十二條 船又ハ積荷ヲ引當トシテ金高ヲ借入ル、契約又ハ海上受合ノ契約ニ付テノ訴ヲ為ス可キ期限ハ其契約ノ時ヨリ五年ナリトス

第四百三十三條 船賃、船ノ「」ノ給料、水夫及ヒ其他乗組人ノ雇賃ヲ受取ルニ付キ、訴ヲ為ス可キ期限ハ航海ヲ為シ終リタルヨリ一年ナリトス

船長ノ言附ニ因リ水夫等ニ給シタル飲食料ノ代金ヲ受取ルニ付キ訴ヲ為ス期限ハ其飲食料ヲ給シタルヨリ一年ナリトス

船ヲ造リ又ハ穢送シ又ハ食料ヲ備フル為メ供給シタル木材及ヒ其他ノ物品ノ代金ヲ受取ルニ付キ訴ヲ為ス可キ期限ハ其供給ヲ為シタルヨリ一年ナリトス

船ヲ造ル為メ使用ヲ受ケシエ丁ノ雇賃及ヒ其船ノ造營料ヲ受取ルニ付キ訴ヲ為ス可キ期限ハ其船ヲ引渡シタルヨリ一年ナリトス

積荷ノ引渡ヲ得ルニ付キ訴ヲ為ス可キ期限ハ船ノ到着ヨリ一年ナリトス

第四百三十四條 義務ヲ認ムル私ノ書又ハ公正ノ書又ハ負債ノ算計書又ハ裁判所ヘノ呼出狀アル時ハ期滿得免ノ權ヲ得可カラス

○第十四卷 訴ヲ拒ム事

第四百三十五條 左ノ訴ハ相手方ニテ之ヲ拒ムト得可シ

荷物ノ毀損セシテ知リ故障ヲ述フルトナク
 之ヲ受取り後ニ船長及ヒ海上受合人ニ對シ
 テ其損害ヲ償フ得ントスル訴
 船長積荷ヲ引渡シテ船ニ受ケタル損害ノ償
 フ得ント述フルトナク船賃ヲ受取リシ後ニ
 其船ヲ借入レシ者ニ對シテ其損害ノ償ヲ得
 ントスル訴

船ト船ト突當リシ時船ニ損害ヲ受ケタルニ
 付キ船長其償ヲ得ント述フルトナク得可キ場
 所ニアリテ其旨ヲ述フルトナク後ニ至リ其

償ヲ得ントスル訴

第四百三十六條 又前條ノ場合ニ於テ荷物ヲ
 受取ルニ付テノ故障ヲ述ヘ又ハ船ニ受ケタ
 ル損害ノ償ヲ得ント述ヘタルト雖モ其故障
 申述ノ書面又ハ損害ノ償ヲ得ント述フル書
 面ヲ二十四時間ニ記シテ之ヲ先方ニ送達シ
 且其書ヲ記シタル日ヨリ一月内ニ裁判所ニ
 訴出セサルニ於テハ其故障ヲ申述又ハ損害
 ノ償ヲ得ントスル申述ノ効ナカル可シ

辻
士
革
校

佛蘭西
法律書
商法
三終

